

レジリエントな生き方を

小山 真紀

岐阜大学流域圏科学研究センター・准教授

<仕事の内容とやりがい>

私は地域防災を専門にしています。「災害で人はどのように死傷・困窮に至るのか」の解明と対策への実装をメイン取り組んでいますが、昨今では、地域で実際に活動できる人材育成や連携のネットワークづくりなどに関する研究も行っています。防災は実学ですので、研究成果が研究領域だけに留まらず、行政や地域との協働により、研究の成果が行政の施策や対策に実際に反映されたり、地域の活動に活かされていく点で、やりがいを感じます。

<進路決定のきっかけ>

ちょうど大学に在籍している時に阪神・淡路大震災が発生しました。刻々と増え続ける死者数の報道に、大きなショックを受け、死者軽減のために何かできないかと考えたのがきっかけです。死者軽減のためには、消防や医療など、被災者に直接関わる仕事や、技術者などの進路もありえましたが、それらの職種では起きること、起きたことへの対応という意味で対症療法的でした。根治(本質的な問題解決)を目指すなら研究者が一番適していると思い、研究者を目指しました。

私の場合ですが、研究者としての仕事は経営者的でもあるため、仕事時間と家庭の時間を明確に分けることが困難でした。子連れでの出勤・出張、夜間のオンライン会議など、仕事と家庭がない交ぜという状況です。子どものことなどは、自分ではコントロールできないことも多いので、「こうあるべき、こうありたい」という思いが強いと、心身共に疲弊しがちです。これがダメならこういう手もあるか、と、柔軟に考えられると楽になると思います。世の中にはいろんなアイデアが転がっています。お互い様の考え方を大事にして、一人で抱え込まないことが大事です。

就職では、相手に合わせるより、自分にとって良いところ、自分に合うところを探すのがよいと思います。相手が期待することと自分の本質が異なっていたらしんどいと思うので、無理して相手に合わせるより、自分らしく居られるところを見つけられるなら、それが一番かなと思います。進路も、日本だけではなく、世界中に道は開けていますので、「これしかない」と思いすぎる必要はありません。いろいろ経験しておくで選択のハードルが下がりますので、チャンスがあるうちにいろいろな経験をするとよいと思います。

<仕事と家庭のバランス>

<進路選択に対してのメッセージ>

<プロフィール>



山口大学卒業→同大学院博士前期課程修了→NTT→(財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所<この間に東京工業大学大学院博士後期課程単位取得退学, 博士(工学), 第一, 二子出産>→起業→京都大学特定准教授→現職 <https://researchmap.jp/makik>